

## 投稿規定

- (1) 論文の内容は、日本を含む東アジアの領域を中心としつつ、他地域も含めたグローバルな文学・歴史・思想・民俗・宗教・芸術・政治・経済・法律・社会等に関するものとしす。
- (2) 投稿資格は、本学の専任及び非常勤教員・特命教授・名誉教授・客員教授・研究員・客員研究員・助手（非常勤）、研究所の企画・活動に参加した研究者、並びに編集委員会が認めた者としす。
- (3) 原稿の枚数は、四〇〇字詰め原稿用紙に換算して六〇枚前後としす。縦書き、横書きは問いません。（掲載が決定してから二週間以内に印刷用原稿を電子媒体で提出することを原則としす。）
- (4) 投稿された原稿は、編集委員会が最終的な採否の決定をしす。
- (5) 執筆者校正は初校のみとしす。なお、校正段階での大幅な修正はできませんので、完全原稿で提出してください。（大幅な修正があった場合は、応分の費用を負担願うこととなります。）
- (6) 各執筆者に抜き刷りを五〇部及び本誌五部を贈呈しす。なお、抜き刷り増刷は、実費でいたしますので、事前に申し込みください。
- (7) 本誌に発表されたものを転載する場合は、予め運営委員会にご一報の上、出版物を一部東アジア学術総合研究所にご寄贈下さい。（『年次別論文集』への掲載を除く。）
- (8) 本誌に掲載された全ての論文等については、原稿を電子化媒体によって複製、公開し、公衆に送信することができるものとしす。
- (9) 執筆要領の詳細については、研究所までお問合せください。

## 編集後記

『集刊』第四六集をお届けいたします。本誌には七名の投稿者を得ました。中国文学系一名、国文学系一名、民俗学系一名、書道系一名、政治経済学系一名、法学系一名、資料紹介一名であります。東アジアに関する諸問題を広く取り上げるといふ本誌の目的に沿った傾向は、今回も維持されています。むしろ論考の多様化されているという点で、望ましい方向へ向かっていると申せましょう。

昨年度、本研究所内に「海外講座企画・推進室」を部局として立ち上げました。その関係で、昨年度は、ハンガリー国立エトヴェシユ・ロラード大学との間に、学術交流協定が締結されました。今年度も引き続き、フランスのリール第三大学、イタリヤのカ・フォスカリ大学との協定が計画されています。

本年二月に、文部科学省の支援事業への申請が行われ、今春採択の通知があり、「近代日本の〈知〉の形成と漢学」というテーマで活動を開始しています。各位のより一層のご協力・ご支援をお願い申し上げます。